

（NKT）市長、よろしくお願ひします。

（上定市長）よろしくお願ひします。私から、6項目ご説明します。

まず1つ目、職人商店街に係る補助金募集の受付を開始します。職人商店街については、選挙のときの公約として打ち出している施策です。中心市街地の活性化、商店街のにぎわいを取り戻すという観点でこれまでも検討を重ねて、「松江市職人商店街創出支援補助金」の受付を本日より開始します。この職人商店街の構想は、商店街が疲弊している中で、その再生を促すための仕組みの構築ということで、手始めに、物づくりの職人にスポットを当て、そこから商店街の活性化を図る取り組みです。松江ならではの物づくりに触れることができる、本物がある職人商店街をつくっていく構想で、今年の3月に策定した松江市の総合計画、「MATSUE DREAMS 2030」の中にも掲げています。具体的には、2つの観点から進めてまいります。1つ目が、職人の手仕事の見える化を図る、もう一つが、その職人の手ほどきを受けながら物づくりの体験ができる。そういった店舗が連なる商店街を念頭に置き、既存店舗をリノベーションすることで、この2つの要素を取り入れていきたいと考えています。2つの要素が、市民そして観光客に味わっていただけるような町並みを想定しています。補助金の対象となるのは、施設整備と広告宣伝活動の2種類です。改修費、備品の購入費、また広報費、印刷費等を対象とし、補助率が2分の1、上限額が施設整備は500万円、広告宣伝活動は20万円としています。詳しくは産業経済部の商工企画課までお尋ねください。

続いて、原油価格・物価高騰等緊急対策です。松江市は「SDGs未来都市」という内閣府の認定取得を目指して歩みを進めています。原油等の物価高騰の中で、事業者の支援を行うべく、今回の制度を創設しました。省エネ対策の設備等の導入によって、持続可能な経営を目指す事業者の皆さんを応援する制度です。この省エネ対策については、業界を絞らず支援するもので、製造業、林業については、すでに受付を開始しています。商業・サービス業、漁業、施設園芸については、8月22日から受付を開始します。ぜひ、ご担当課までお問合せください。

3点目、松江市のSDGsに係る取り組みについて、「松江市サステナブル・ポリシー」をこの7月に策定しました。副題を松江市SDGs推進基本方針としていますが、策定の目的、趣旨をご説明します。SDGsといいますのは、2015年の国連サミットにおいて採択された2030年までの持続可能な開発目標のことを指します。我が国も国際社会の一員としてその責務を果たすべく、SDGsの達成に向けた取り組みが官民連携の下で積極的に進められています。地域社会が直面する人口減少、少子高齢化といった課題を克服するために、SDGsが掲げているパートナーシップを重視し、経済、社会、環境の3つの側面のバランスを取りながら地方創生の取り組みを加速させていくことが必要と認識しています。とりわけ、変化の速い、しかもその変化が見越しにくい不透明な時代の中で、安心・安全に暮らせるまちとなるためにも、SDGsの観点からのアプローチが重要であると考えています。そして、松江にある、先人から我々が受け継いでくることができた豊かな自然、歴史、伝統文化等に磨きをかけ、また、脱炭素やDXのような新たな潮流と掛け合せることによって、持続可能な松江を目指す必要があります。そういった政策的な課題を克服することを念頭に、このポリシーを策定しています。具体的なSDGsに対する取り組みの方針を3つに分けています。まず、市の施策への反映。SDGsの理念と整合性がある政策と、17の目標との関連性を分かりやすく明示します。次に、行政だけできることは限られており、多様な主体、市民の皆さん、学校、民間企業と

の連携を強化してまいります。SDGsに係る、松江市全体としての理解の促進と普及啓発を図ります。そして、市役所職員の理解促進を図り、働きがいを持って持続可能なまちづくりに貢献できる職員を育ててまいります。まさに今のコロナ対策のように、オール市役所で行政サービスの質を維持し、高めていきたいと考えています。このサステナブルポリシーの推進体制として、政策部の中にSDGs推進課をこの4月に設置しました。ここを基点とし、総合調整、部局間の連携を図り相乗効果を高めてまいります。また、その進捗管理を松江市の総合計画の検証に合わせて行います。まさに松江市の総合計画自体がSDGsとシンクロしながら取り組んでいくべき目標と考えています。市民の皆さんにもぜひこのSDGsの精神を共有し、松江市全体で推進していきたいという思いから、マグネットを500台分作成し、市が所有しているいわゆる公用車に貼ることで普及啓発を図っているところです。また、市民の皆さんとのSDGsに対する取り組み事例を、「身近なSDGs」として募集します。個人あるいは職場、団体などが行うSDGsに関する取り組み、また、松江市内の学校などが行っている取り組みについて、令和元年度以降のものを対象としています。例えば地域おこし協力隊が主催の小波海岸でビーチクリーン活動、松江一中の生徒を対象に開催したSDGsの環境講座、こういった取り組みについて、写真も併せてお寄せください。応募いただいた取り組みは、市のホームページ、SDGs情報広場の「身近なSDGs」というコーナーに掲載します。続いて、ブックスタート事業のご案内です。ブックスタート事業とは、絵本を子育て中のお父さん、お母さんにプレゼントし、その絵本を通じて親子の絆づくりの機会、読み聞かせの機会をつくるきっかけにしていただくものです。特にコロナ禍において自宅内で過ごす時間が増える中で、絵本を親子の触れ合いツールにして欲しいとの思いから、今年度この取り組みを始めます。今年の4月1日以降に生まれたお子さんを対象に、4か月児健診の際に配付します。15種類の絵本の中から1冊選んでもらいプレゼントします。その中の1冊、「いないいないばあ」は私も子どもに読み聞かせておりました。この取り組みをするに当たって、図書館の司書や読み聞かせボランティアから読み聞かせのやり方についてお伝えすることも考えています。コロナ感染対策のために当面は見送りますが、感染状況を見ながら行いたいと考えています。

次が、ジオパークについてです。日本で初めて、世界ジオパークが認定されたのが平成21年8月22日であることから、この8月22日は「ジオパークの日」とされています。「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」も、毎年それに併せてイベントを開催しています。今年は、8月20日・21日に行います。イオン松江ショッピングセンターでは、「ジオパック!～つくって感じるジオパーク～」と題し、貝殻を使ったアクセサリー作り教室、ジオパーク和菓子作り教室、ジオパークのオリジナル動画の上映を行います。出雲市のアトネスいすもでも、カラフル化石のレプリカ作り、動画上映を行います。そのほか、松江ビジターセンター、日御崎のビジターセンターではオリジナルグッズをプレゼントします。ジオパークについて、楽しみながら知っていただくイベントとなっていますので、ぜひお越しください。

最後に、新型コロナウイルス感染症についてです。新規の感染確認が引き続き高い水準で続いています。療養中の方、あるいは濃厚接触者として外出を自粛してお過ごしの方には心よりお見舞いを申し上げます。また、日々、医療従事者としてコロナに立ち向かっていただいている医療関係者の皆様には、改めてお礼を申し上げます。お盆を迎える、帰省や旅行でふだんは会わない方と久しぶりに交流するという機会が増えることと思います。本日は、改めて基本的な感染予防対策についてお願いをさせていただきます。まず、感染者の状況ですが、7月は8,422人の感染が確認され、8月に入り9日までで3,120人確認されています。7月と同様に非常に高い水準での感染が確認されており、1日の平均は346人となります。1日当たりの感染確認が一番多かったのが7月19日の649

人で、それに次ぐ521人が8月8日に確認されています。年代別の割合は19歳以下が3分の1を占めており、若年層の感染が目立っています。集団感染が7月は47件であったのに対して、8月は9件と少し減っていますが、保育施設・福祉施設で多く確認されていますが、学校については夏休みに入ったことにより減っています。こうした状況を踏まえ、お盆を迎えるに当たり気をつけていただきたいことを改めて申し上げます。1つ目が、小まめな換気です。ご親族等で集まる機会、あるいは同級生で集まる機会が多々出てくると思います。小まめな換気、適正な冷房の温度の設定に心がけてください。2つ目が、会食時の注意です。会話をするときにマスクを着用し、できるだけ少人数で黙食し、さらに、コップ、箸、あるいはタオル等を共用しないということが感染対策には重要です。3つ目、お出かけの際は、マスクの着用、手指消毒、人混みなど密な場所は避けるといった極めて基本的な感染対策を、いま一度確認し徹底をお願いします。そして、飲食は感染防止対策をほどこした認証店を利用し、少人数かつ長時間に及ばないように留意し、マスクを外す時間を少なくするなどの注意を払い、楽しんでいただきたいです。感染の拡大が続く状況の中で、お一人お一人の心がけが非常に重要となってまいります。皆さまのご協力を引き続き何とぞよろしくお願いします。

私からは以上となります。

(NKT) 各社、何か質問はございませんでしょうか。

(NHK) 新型コロナについて、お盆で人の流れはかなり増えると見込まれます。松江市として、行動の制限を求めるようなことはありますか。

(上定市長) 松江市としては考えておりません。県が、65歳以上高齢者の方、あるいは基礎疾患を持った方が県外に移動する際は、それぞれの県の感染状況あるいは医療の提供状況を見極めた上でアナウンスしていますが、松江市として何か行動制限を行う方針はございません。社会経済活動と感染予防対策の両立を図っていくことが重要だと考えています。

(NHK) そうした中で、人の流れが増えることはほぼ間違いないと思います。それと感染を抑えることの両立は難しいと思いますが、そういう中で、これ以上状況が悪くならないようにどうしていくのか、改めて教えてください。

(上定市長) まさにお一人お一人の心がけてできるだけの予防を図っていくしかない状況と考えています。コロナに感染すること自体がそれほど多くなかった時とは、随分状況は変わってきています。一方で、重篤化する事例が非常に少ないという状況もありますので、その中で、お一人お一人が行動する際に、改めて感染予防について、自主性を持って徹底するということを常に心がけていただきたいです。今回も、今までの繰り返しの内容ではありますが、お盆を迎えるに当たって重ねて注意喚起をさせていただいている。

(時事通信) 身近なSDGsを募集されるということですが、市長としてどういった効果を期待されているのかをお聞かせください。

(上定市長) SDGsの17項目の目標は、非常に多岐にわたります。SDGで何を目指しているかというと、持続可能な世の中をつくっていくということになります。それをすぐに実行できるのかというと、そういったものではなく、2030年までの長期わたって、少しずつ持続可能な世の中を、我々が手にしていかなければならず、それはある種、草の根の活動といいますか、一人一人の心がけが非常に大切だと思っています。松江市民としてそうした国際的な課題に一つ一つを率先して積極的にやっていくべきと認識しており、その中で一人一人がまずできることから始めたいと考えています。行政から押しつけるものではなく、実際に企業やCSRの活動やなど先進的にやっていらっしゃる方々が率先して取り組んでいくことで、松江市もそれに追随していくという形で取り組んでいきたいと考えています。

しゃるところもありますので、そういう好事例を参考にし、市民の皆さん、あるいは地元の企業の皆さんのが率先垂範できるような、そういう取り組み方が健全であると考えています。今回こうした募集をしますが、自分のこととしてSDGsに向かって取り組んでいただきたいという思いです。

(山陰中央新報) コロナの感染者数が8月は1日当たり346.67人と、8月に入って落ち着くと思ったら、7月よりも勢がある状況が続いています。感染拡大が続く理由をどのように捉えていますか。

(上定市長) 学校が夏休みに入りましたので、学校でのクラスターの確認は減ってきていますが、子どもたちが活発に行動する中で、家族と過ごす時間も増えています。家族のお一人が感染した場合、家族全員に感染が広がる傾向が見受けられます。家庭内で感染が広がっている状況ですので、お皿、箸、タオルなどの共用を控えるといった取り組みで家庭内の感染の広がりを食い止めていくほかないという認識です。

(山陰中央新報社) これまでも家庭内での対策を呼びかけてこられましたが、どうしても限界があるのでと、効果について疑問を抱いてしまいますが、どうお考えでしょうか。

(上定市長) 家庭の中では、寝食を共にするわけですから接触の度合いが高いのは当然ですし、家族の関係が希薄になること自体、家庭の在り方として健全とは言いにくいものだと思います。特に幼いお子さんとお父さん、お母さんが濃密な時間を過ごすことは子育てあるいは教育の上でも非常に重要なことですので、ある程度の限界があるのは事実だと思います。乳幼児にマスクを強要することはできませんし、熱中症の不安もございます。ですので、市民の皆さんに強制的に無理なことをお願いしたいわけではなく、社会生活を続けていく上で必要な取り組みをできる限り続けて、感染予防対策を頭の隅に置いて行動していただきたいです。感染防止対策を特に小さいお子さんをお持ちの方には、お子さんの健康を維持する上でも念頭に置き、一つ一つの行動を心がけていただきたいと考えています。

(山陰中央新報) 先日、原発の関係で六ヶ所村に視察に行かれましたが、視察を終えたお気持ちと、今後、松江市の原子力政策、島根原発への対応等々で生かされがあれば教えてください。

(上定市長) 先日、青森県の六ヶ所村に視察に行き、日本原燃の再処理工場とMOX燃料工場、建設中の再処理工場等を視察しました。日本原燃の方から、安心・安全を第一にして工事を進めているということ、できるだけ早い竣工を目指していることをお話をいただきました。これは今年の2月に私が島根原発2号機の再稼働について同意の表明をしたときにも申し上げましたが、いわゆる核燃料サイクルの構築は必要不可欠だと考えています。その中で非常に重要な役割を果たすこの六ヶ所村の施設が、安心・安全を第一に建設が進んでいることが確認できたのは非常に大きな収穫であったと考えています。今後も、経済産業大臣にも確認をしていますが、工事の進捗をできるだけ早めいただき、速やかにサイクルが構築できるように取り組んでいただきたいと考えています。

(朝日新聞) 職人商店街は繰り返し掲げてこられたテーマだと思いますが、今日から受付開始で、期限はいつまでですか。

(上定市長) 本日から受付を開始し、今のところ期限は設定していません。たくさんの方にご応募いただきたいですが、予算に限りがありますので、応募の状況をみて、例えば来年度以降にどうつなげていくかといったところは考えてまいります。

(朝日新聞) 対象は市内の方だけですか。

(上定市長) 今、考えているのは既存店舗のリノベーションですので、既存店をお持ちの方、あるいは賃貸を考え

ている方、そういった市内の事業者さんを想定しています。

(中国新聞) 職人商店街というからには、職人さんのお店を集積した地区をイメージしていましたが、今回の補助を受ける場合は、その場でリノベーションする場合も支援を受けられますか。

(上定市長) 今、松江の商店街は、寂れているところ、シャッターが閉まっているところ、駐車場になっているところなどがあり、その中で、一つのところに集積させにぎわいを取り戻すというまちづくりのやり方もあります。ただ、松江市が念頭に置いているのは、商店街の実際に営業中の老舗店舗で、職人さんがいいものを作つらしやるようなお店がどうしても点になってしまい、結果的にそれがつながって線になつてないところが課題だと思います。そういったお店を、一つのところに集積するのではなく、既存の店舗を生かす形でリノベーションし、例えば1階をガラス張りにし、道を歩く人が何か面白いことやっているなど感じ、それを見たり体験したりと楽しめる店舗、それがつながっている商店街を再生していきたいという思いです。店舗にある程度のばらつきがあったほうが、それをうまく線でつなげば、その途中にある町並の再生につながる可能性が高くなり、まち全体としてにぎわいを取り戻していくという取り組みにつなげていきたいと考えています。

(NHK) 職人商店街について、具体的な施策というのが出てきたと思いますが、補助金事業だけではないと思いますが、今後どういう施策を打つて事業を発展させていきたいとお考えですか。

(上定市長) 今回対象とさせていただくのは、伝統工芸の職人、そこには和菓子やお茶も入ってきますので、広い意味での物づくりというふうに捉えています。一方で、伝統的な物づくりの方だけでなく、現代アートといいますか、クリエイティブに創造活動をこの松江でやつらしやる職人さんに例えば松江市の大庭町にある出雲かんべの里で創作活動をしたり、意見交換・交流できるような設備も設けています。また、いろは舎という販売できる場所もあり、地域おこし協力隊がマーケティングを担いアドバイスをさせていただきます。そういった方に例えば商店街に出てきていただき、独立した店舗というよりは、何人かの方が週替わり、月替わりで入り、作品を販売するようなイメージですが、そういった店舗を先ほどの点と点で結ばれた線の間に置くことによって、にぎわいをさらに取り戻していくことができるのではないかと思います。新しい色々な考え方を持ちの方に入つていただき、相乗効果、ワイン・ワインとなるような、そういった古くて新しい町並みが理想としている職人商店街の姿でして、そのための施策を松江市が主導する形で整えていきたいと思っています。そこには当然民間の皆さんに入つていただき、儲かる場にならないと持続していかないので、民間の皆さんからのご意見をいただきながら一緒に組み立てていく形を想定しています。

(NKT) その他、ございますか。以上で終了いたします。ありがとうございました。

(上定市長) ありがとうございました。